

令和3年度第2回亀岡市環境基本計画推進会議

- 開催日時 令和3年8月6日（金） 午前9時30分～午前11時30分
- 開催場所 亀岡市役所 別館3階 会議室
- 出席者 加藤委員、豊田委員、荒木委員、山内委員、井上委員、奥村委員、三間委員、児嶋委員、村山委員、中川委員、原田委員、太田委員、田部委員、多胡委員、高橋委員、山内幹事（事務局6名）
- 欠席者 芦刈委員、山脇委員、川口委員

- 1 委嘱状交付
- 2 市長挨拶
- 3 亀岡市環境基本計画推進会議設置要綱について
- 4 会長選出
田部頼子委員（市民公募）
- 5 副会長選出
加藤俊彦委員（ニチコン亀岡株式会社）
- 6 会長挨拶
- 7 協議事項

- （1）京都府地球温暖化防止活動推進連絡調整会議委員について

立候補者がいないため、引き続き村山委員を推薦することで一致

- （2）SDGsを活用した環境先進都市の実現に向けて

意見・質問	回答
教育分野での達成度は比較的高いとのことであるが、どの目標も教育に紐づくと思う。教育の達成度はどのような評価がされているのか。また、達成ができていると評価される具体例はあるか。	教育は193か国全てに共通するため、男女が学校に通えているということもターゲットに含まれている。日本では男女が学校に通うことは当たり前であるが、それすら叶わない国が多くあることから、先進国の順位や達成度は相対的に高くなる。そのほかに、ターゲ

	ット 4.7 にある ESD (持続可能な開発のための教育) に取り組んでいるかという指標も設定されている。教育について、日本は非常に高く評価されているが、発展途上国では読み書きできない子どもがたくさんいることもあり、必然的に日本の達成度は高くなる。また、内閣府において、日本版に読み替えたローカル指標を設定しているので、達成度の指標設定の参考になるのではないかな。
高木氏が思われる SDG s の中で最も重要とされているものは何か。また、環境分野で最も重要とされているものは何か。	1 つゴールを選べとなると、SDG s の文脈からすれば、1 番の貧困であり、世界的に貧困を減らしていくことが SDG s の本質であると考えられる。 環境分野については、気候変動は目に見えないうちに我々に近寄っており、脱炭素をどう進めるかがキーワードになると思われる。もう一つは、12 番のゴールで循環型社会の実現も重要になると思われる。
世界基準と日本基準で見た場合、評価が大きく分かれると思う。日本は工業の問題が多いはずである。ところが亀岡市では工場の割合は少なく、取り組める範囲が狭くなってしまう。その場合、どういった視点で考えるべきか。	指標の選定には、様々な自治体が悩んでいるところである。例えば、市民と一緒にステークホルダー会議を開き、SDG s の 17 の幅広いゴールで考えたときに、どのゴールが遅れていて、どういう指標設定が適切なのかを市民と一緒に議論されている自治体もある。これが全ての解法でないかもしれないが、今までなかった SDG s の視点で市民と行政と一緒に指標設定していくことが重要である。御意見のように、グローバルな SDG s を亀岡版に読み替えていくことも非常に重要である。
世界中が共通して取り組む目標が書かれているが、それぞれの国においても争いがあるなど様々である。そのような中で、世界中が共通して取り組むことは可能なかと思っている。そのような目標でいいのか疑問に思う。	本当に全ての国で共有できているのかと疑問に思われるが、ここまで幅広い統合的な目標を一つのものとして考えようとしたのは、国連の歴史上、初めてと言われている。個人的には、初めての取組であり、2030 年にならないと評価はできないと思う。これまで個別に議論し

	がちであったものを統合的に考えると、どのような結果になるのかということとは、今を生きる我々の世代で一生懸命取り組んでみる価値があると考えている。
レジ袋やペットボトルを削減していくことは大事と思うが、環境だからと規制していくと、トレードオフの関係として、それらに関わる多くの業種や雇用にも影響を与える。業態変化をすればいいと簡単に言われているが、できるものとできないものがあり、SDGsはその部分を含めてフォローができるような考えになっているのか。2030年という期限を切られており、世界的な方向性も少し高圧的な動きになってしまうこともあると思われる。	一つの取組によって、他のところに悪影響が及んでしまう可能性については、課題ごとに考えるのではなく、関係するセクターが集まって議論を交わして一つを取り組んでいかなければならないと思っている。 時間的なものに関しては、10年でできるのかと言われるとやはり難しい課題であると思っているが、2030年の達成が遅れたとしても、この10年で土台となる仕組みを構築していかなければならないと思っている。
亀岡市の人口規模に類似する自治体で先進地のようなところはあるのか。	SDGs未来都市に選ばれている自治体は京都府内にも多く、全国では、亀岡市と同じような人口規模の自治体も多くある。SDGs未来都市は124都市あり、その中で自治体SDGsモデル事業に選ばれている都市が40都市ある。それらの都市の取組も参考になるのではないと思う。
朝日新聞によるSDGsの認知度が約46%と非常に低く、まずは知ってもらうことが重要であると思う。SDGsには我々の世界を変革するというキーワードがあり、理解だけでなく、我々の行動を変容して、世界を変革するような行動に移し替えていかなければならない。既に5年が経過しているが、日本において2030年の達成に向けた効果的な取組があれば教えてほしい。	色々な分野で考えられるが、一例として、デジタル化による社会変革がキーワードの一つになると思われる。DX（デジタルトランスフォーメーション）と言われているが、例えば、紙を使っていたものをデジタル化することで環境負荷を減らすことができる。ただし、電気も使うこととなることから、トレードオフについても考えなければならない。 このコロナ過で、今まで通勤していた人がオンライン会議などを用いて通勤しなくてもよくなれば、その分、車の温室効果ガスの排出量は減る。このように、レバレッジ・ポイント、いわゆるどこが槌子になって一番効果的なのかというポ

	イントを皆さんで探していくことが重要であると思う。その一つとして、D Xが挙げられる。
--	--

(3) 脱炭素社会に向けた国内の対策・施策について

8 閉会